



一年の計は元旦にあり！ 実行に移す「決意」と「習慣」を！

新年明けましておめでとうございます。令和4年、西暦2022年。そして今年度最後の三学期がスタートしました。

お正月は、ご家族で楽しく有意義な時間を過ごせたことと思います。大きな事故もなく、葦高小学校の子ども738人がそろって三学期のスタートができて本当に良かったと思います。

さて「一年の計は元旦にあり」と言われますが、この言葉は何事にも最初が大切で、一年間を充実させるには年の初めに自分で「めあて」を決めて取り組むことが大事であるということ、今日の始業式で子どもたちに伝えました。一つ年をとるということは、身長も体重も増え、体が大きくなりますが、それといっしょに人間として、物事を考えたり判断したりする力や、相手を思いやる優しい心も大きく成長していく必要があります。特に、物事を考え実行する力や心の成長のためには、「めあて」をもって「学ぼうとする前向きな姿勢」が大切です。

子どもたちには、アメリカのメジャーリーグで大活躍している大谷翔平選手の「目標達成シート」を紹介して、「めあて」をもって「努力を続ける」大切さを、昨年から伝えており、それを見習って実行できている子どもたちも増えてきています。

人間は、もともと積極的に行動する生き物であると言われていています。しかし、実際には「行動力」のある人とそうでない人がいます。その違いは何か。それは「今、何をすべきか」を考え、決定し、「行動に移す習慣が身についているかどうか」が分かれます。つまり、「実行に移す決意と習慣」の問題です。

まず第一に自分で「めあてを決める」ことが大切です。「まかない種は生えない」と言われるように、花や野菜に限らず、勉強でもスポーツでも種をまかなければ何も実りません。めあてを決めるということは、「自分を生かすチャンス」という種をまくことです。

第二に、めあてに向かって「やるべきことを決める」ことです。まず初めにやること、それができたら、次に、いつ、どのようにやるかという順番と方法を決めることです。

そして、第三に「実行に移す」ことです。何事もスタートには力が必要です。自転車でも車でも、動き出す時には、一番大きな力が必要になります。でも、走り出すとそれほど力は要りません。

このように、「実行に移す習慣」を身につけることで、一人ひとりの夢や願いが一步ずつ実現に近づいていきます。子どもたちには、ぜひ「自分の力を信じて」努力できる三学期にしてほしいです。

かつて、千円札の肖像だった明治の文豪、夏目漱石も「自分のしていることが、自分のめあてとなっていないことほど苦しいことはない。」とめあてをもつことの大切さを語っています。

三学期は、それぞれの学年の学習や運動など、身につけるべきものをすべて自分のものにして、次の学年に備えるまとめの学期です。3月の修了式には、子どもたちがやるべきことをやり終えた満足感と、多くの自信をもって一年間を振り返ることができるよう、学校と家庭が車の両輪となり、努力する子どもたちの背中を押していきたいと思っています。

校長 藤井 朗



MLB 大谷翔平

体づくり	コントロール	体のキレ
強いメンタル	ドラ1 8球団 指名	スピード 160km
人間性	運	変化球
大谷選手の目標シート		

生きる上で、めあてをもつことは、誠に大切である。



夏目漱石